

年 組 名前:

国内最大級 ブドウ畑整備



フジクレール

北杜に40畝ワイン増産へ

フジクレールワイナリー(甲州市勝沼町下岩崎、沢村貴太社長)は、北杜市武川町三吹に、約40畝のブドウ畑を整備する。ブドウの単一畑場としては「日本最大級」(同社)で、整備後にはワイン生産量は現在の2倍以上を見込んでいる。醸造用ブドウ農家の離農などが進んでいることから、将来的に安定した収穫量を確保する狙いがある。造成や植樹を進め、本格的な運用は2032年ごろを予定している。

〈山本昂輝〉

同社によると、畑場は武川中から約1・5㍓北西の耕作放棄地などに整備。広いエリアを効率的に管理するため、枝葉の切り落としができる大型の農機「リーフカッター」や、水の散布などができるドローンを導入する。甲州種やマスカット・ベリーA、シヤルドネ、ピノ・ノワールなど醸造用ブドウに加え、生食用ブドウの栽培も予定している。

40畝のうち、0・86畝は試験畑場として6月中旬にも運用を始める。IoT(モノのインターネット)を活用した栽培方法の検証などに取り組む。農家の高齢化による離農や人気の高いシャインマスカットへの転換などで、醸造用ブドウの供給量は今後さらに減少すると見込んでいて、自社で大規模な畑場を整備することで安定的な確保を目指す。雨量や日照時間、風量などを総合的に評価し、北杜市への畑場整備を決めた。造成工事は2026年までに完了させ、28年にブドウの苗木を植え、32年から本格的な収穫を行うていく予定。畑場整備に合わせ、同市内に新たなワイナリーの整備も検討している。沢村社長は「さまざまな栽培

(2023年6月6日付 山梨日日新聞5面)

培方法にチャレンジし、その技術を周知することで日本ワインの発展に貢献したい。新畑場の整備から100年続くワイナリーを目指していく」と話している。

問1 甲州市のワイナリーは、どこに「国内最大級」のブドウ畑を整備しますか。

.....

問2 どのような理由で、この場所を選定しましたか。

.....

問3 今後の予定を教えてください。

・2026年: ・2028年:

・2032年: